

「拠点形成研究」がスタート

沿岸域センターの教員を中心とした学内プロジェクト「閉鎖性海域における豊かな自然環境・社会環境創生のための先端科学研究・教育の拠点形成」（代表：逸見泰久センター長，2014～2016年度）が始まりました。



拠点形成研究プロジェクトは、「熊本大学の研究のうち，社会的要請の高い分野，学際的分野，社会的あるいは学術的に高く評価されている分野を拠点として選定することで，大学全体の研究力強化に資する」ことを目的としています。特に，我々のグループでは，「閉鎖性海域が抱える環境・防災および地域社会形成に関する緊急・重大な課題に応えること」を目的としています。そして，そのために，「学際的・複合的で広範な研究分野で，『豊かな自然環境・社会環境の創生』を目指すため，より先端的な研究・教育の推進と，豊かな地域環境の創生に向けた技術開発・社会政策に貢献する」つもりです。

3年間の短い期間ですが，河川・沿岸環境の健全なマネジメントを目的に，「人間生活と共生した河川流域・沿岸環境の再生・創生」を目指す新たな学問領域の拠点形成を図り，同時に，インフラ整備が急速に進みつつある東アジア地域などにも貢献したいと考えています。

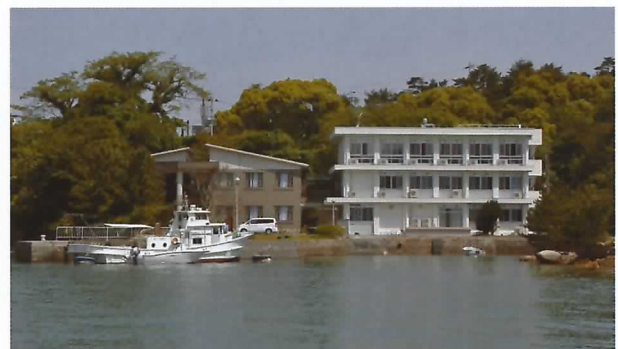
合津マリンステーションの研究宿泊棟が改修されました

附属施設・合津マリンステーション（上天草市松島町）の研究宿泊棟（3階建，1971年建設）が大幅に改修されました。

研究宿泊棟は，研究施設（研究室・実験室）と宿泊施設（宿泊室，食堂・厨房，浴室など）を備えた建物で，主に学内外の研究者・学生や小中高校生・教員等に使われてきました。しかし，築40年以上が経過したことで，いろいろな面で不都合が生じていました。今回の改修では，耐震補強を行うとともに，利用者が快適に過ごせるように部屋の配置なども大きく変更しました。

まず，1階については，厨房を対面キッチンとし，食堂と連結しました。また，安全性を考え，調理器はすべてIHにしました。浴室は男女各5台のシャワールームに変更しました。また，外来者用の研究室を2部屋配備しました。2階は，教員・学生の研究室・実験室のままですが，男女トイレをシャワー付にしました。3階は，和室を撤去し，2人用（ベッド2台）の宿泊室を2部屋，6人用（2段ベッド3台）の宿泊室を7部屋配備しました。これにより，宿泊可能な人数が1名増え46名になりました。

教育拠点施設に認定されたこともあり，今後，より多くの方に利用されることを期待しています。



大幅に改修された研究宿泊棟(右)